



岩手

現代の名工がつくる 伝統的工芸品「岩谷堂筆筒」の 新たな挑戦

藤里木工所

藤里木工所（岩手県奥州市江刺区田原字蟹沢、及川孝一社長、0197・35・7711）は、経済産業省の指定を受けた伝統的工芸品「岩谷堂筆筒」を制作する工房として国内のみならず、海外にも広く知られている。

日本人にとって「筆筒」は、昔から生活に欠かせないものであり、その歴史は、江戸時代中期まで遡る。同社が手掛ける「岩谷堂筆筒」の起源も同時期であり、主にケヤキと桐を用材として、塗りは柾目出しの摺漆仕上げ、そこに頑丈な鍛鉄の手打ち金具を取り付けるのが特長である。

同社では通常、分業で行う「木地加工」、「漆塗」、「彫金」の3つの作業工程を一貫して行いながら、代表的な商品である「筆筒」をはじめ、奥州伝統の「ライディング・ビュロー」や「サイドボード」、日本独特の「火鉢」等を制作している。

同社の創業者である及川社長は、どの工程においても卓越した技術を持つ匠であり、「隠し蟻継ぎ」と呼ば



本社工場

れる難易度の高い継ぎ手を導入し、「岩谷堂筆筒」の発展に大きく貢献した。その証として、伝統

工芸士、卓越技能士、黄綬褒章匠を受賞する他、「現代の名工」として確固たる地位を築いている。

また、及川社長は、「伝統を受け継ぐということは、職人が持つ技と知恵を駆使し、これまで以上に優れたものを作るということであり、難しい技術が必要とされればされるほど楽しい。300〜400年程度経過したケヤキは本当にいい木目が出る。樹齢による色の違いや、異なる木の個性によって、世界に1つだけの『岩谷堂筆筒』が生まれる」と製品の魅力について語る。

詳しい製品内容は同社ホームページ (<http://iwate.info.co.jp/iwayadoTansu/>)にて。また、東北新幹線水沢江刺駅から徒歩5分の専用ショールームでも、製品を見学することができる（お盆、年末年始を除く）。



卓越した技術により生み出された『岩谷堂筆筒』